

「ぶんぶんひろば」における授業の実践
「セミナーⅠ」
(ぶんぶんひろば・遊び体験)
(保育学科)

はじめに

保育学科では、平成29年度より、セミナーⅠ（1年前期・水曜日・3コマ目）の中で、ぶんぶんひろばでの「赤ちゃんふれあい体験」を実施している。「ぶんぶんひろば」というのは、本学の子育て支援活動の場で、例年なら週に2回、就園前の乳幼児とその保護者が来て、遊び、交流する場である。

1年前期には実習に関する科目でも座学が中心となり、子どもたちと接する機会がないことから、「保育者になる」という動機付けを保持し、より高めるためにも、赤ちゃんとの触れ合いは重要な意味を持つものになると考えている。また、赤ちゃんの実際の姿を見てかかわることによって、座学で学んでいることも、より具体的な実践場面で必要な内容であることを実感することもできるであろう。

しかし、令和2年度はコロナ禍で「ぶんぶんひろば」が休止を余儀なくされ、「赤ちゃんふれあい体験」も実施が困難となった。そこで、この施設をじっくり体験して、赤ちゃんの遊びやおもちゃ、子育て支援の場としての設備の特徴やノウハウを学ぼうという取り組みに切り替え、「ぶんぶんひろば体験」として計画し、実施した。（前期の間はコロナの終息を期待して待っていたこともあり、この代替方法は後期の実施となった。）

目的

- (1) 子育て支援の意味（必要性）を理解する。
- (2) 子育て支援の場の構造や、玩具類に関する工夫を理解する。
- (3) これまでのぶんぶん広場での子育て支援活動の具体的実践内容等を知る。
- (4) 広場で玩具類を用いて遊んでみることにより、子どもの目線で遊び場の環境を考える。

方法

- (1) 実施は1セミナーが1つのまとまりで、水曜日3限のセミナーの時間（90分間）に、3セミナーが実施。よって、2週間にわたり、3セミナーずつ実施する。

【日程：2020年10月21日（水）、11月4日（水）】

- (2) 学生たちが、特に“安全のための工夫”“楽しい遊びの工夫”などに目を向けることができるよう、あらかじめ準備したチェックシートにチェックを入れながら体験を深めることができるようにする。チェックシートの最後には感想を記入する。

実施した結果

【学生の感想】（抜粋）

- ・床がやわらかいなど、安全についての配慮がたくさんあってすごかったです。
- ・ペットボトルなども工夫次第で様々なおもちゃになると気付かされました。
- ・年齢に合わせた遊びがたくさんあって、よく考えられているなと思いました。
- ・たくさんの工夫があり、手作りのものがたくさんありました。自分も作ってみたいと思いました。
- ・「子どもの遊び」と思っていたのですが、自分たちも楽しむことができたので、おもちゃの力はすごかったです。
- ・環境面で、子どもの目線で、子どもが過ごしやすいように構成されていると感じました。
- ・トイレなども小さい子どもに合わせ、使いやすいよう工夫されていて、行き届いていると感じました。
- ・スタッフの方々から話を聞くことができ、子育て中のお母さん方がどのような悩みを抱えておられるのか等も知ることができました。



写真1 おもちゃに触れる上での注意事項などの説明を教員から受ける様子



写真5 手作りのすべり台の温もりを味わう学生の様子



写真2 ぶんぶんひろばスタッフから、環境面の説明を受ける様子



写真6 子どもの目線でおもちゃを見つめてみる学生の様子



写真3 こまかく手作りされているおもちゃに感心して見入る学生の様子



写真4 おもちゃのいろいろな遊び方に気づく学生の様子

まとめ

写真1～6のように、学生たちは、時に童心に帰って、生き生きと楽しそうに遊び体験を行った。おもちゃも、実際に触ってみて、遊んでみて、その感覚をつかむ(あるいは思い出す)ことによって、はじめて子どもの気持ちにも寄り添うことができるようになるのではないだろうか。

この体験を通して、学生たちは、この場で過ごす子どもたちの姿を具体的にイメージすることができたのではないかとと思われる。また、「子育て支援」ということについても、具体的実践がどのように行われているのか、知るきっかけとなったのではないだろうか。この体験の学びによって得たことを、今後しっかりと生かされていくことを期待したい。

(文責：保育学科 末次 絵里子)